

日本農業労災学会・東京農業大学総研研究会共催シンポジウムのご案内

- 1 開催日：2014年10月1日（水）10:30～17:00
- 2 会場：東京農業大学・世田谷キャンパス・
農大アカデミアセンターB1F・横井講堂（東京都世田谷区桜丘1-1-1）
- 3 主催団体：日本農業労災学会
東京農業大学総研研究会 労災対策研究部会・
就農者推進教育研究部会・農業協同組合研究部会
- 4 後援団体：全国農協中央会・日本農業新聞
- 5 テーマ： 農業労災学の体系化・実証的解明の基本課題と農作業事故
予防のノウハウ・労災補償対策の革新方向
- 6 参加費
 - 1) シンポジウム参加費： 2,000円
 - 2) 交流会参加費： 3,000円

7 申し込み手続き

学外の一般の方々にも公開したシンポジウム・交流会ですので、参加を希望される場合は、①参加者の氏名、②所属の会社名等、③連絡先 E-mail・電話・fax、④参加内容（a. シンポのみ、b. シンポと交流会の両方、c. 交流会のみ）を明示して、シンポジウム実行委員長の東京農業大学教授・北田紀久雄（総研研究会労災対策研究部会連絡幹事）宛に、E-mail：kitada@nodai.ac.jp あるいは FAX（03-5477-2621：この場合は、食料環境経済学科 北田紀久雄を必ず明示）して、9月22日（月）までにお申し込みください。シンポジウム参加費・交流会参加費は当日、会場の一般受付にてお支払いください。

8 テーマの趣旨・ねらい

座長 白石正彦（東京農業大学名誉教授）

日本農業労災学会創立の趣旨では、平成23年の労災加入者1,000人当たりの年間死傷者数は、農業8.8人、建設業5.2人、林業27.7人、製造業2.7人、全業種平均2.1人と農林業の事故発生率が異常に高い点、この現状は農政面でも、地域農業の振興に努めているJAの営農対策上からも放置できない事態に立ち至っている点を強調している。

このような農作業事故の深刻な事態の克服のためには、第1に、農業労災学研究的の体系

化（農業就業における国際的・国内的な安全で健康な管理システムの枠組み研究の深化）と実証的研究（Plan-Do-Check-Act のメカニズムの解明）が大きな課題である。第2に、高齢者に多発している農作業事故（農水省の調査では平成24年の農作業死亡事故350件のうち①年齢階層別では65歳以上層の死亡事故件数割合が79.4%、②要因別では農業機械作業に係る死亡事故件数割合が73.1%、③性別では男86.3%）に注目した予防のノウハウと労災補償対策に関する農業政策やJAグループの営農指導体制、農業機械メーカー等の安全・予防対策の取り組みが大きな課題である。第3に、農業就業者の高齢化の一方で担い手の法人化・集落営農組織化・農外からの就農・農企業参入（雇用労働者がいる農業者等管理責任を有している経営体）の増大など農業構造が大きく変容する環境激変の下での多様な担い手に焦点を当てた労災事故・疾病を予防する内発的なモデル農業経営とモデルJAづくりが大きな課題である。

シンポジウムは、このような問題意識に基づき今年4月に創立した日本農業労災学会と東京農業大学総研研究会3研究部会（就農者推進教育研究部会・労災対策研究部会・農業協同組合研究部会）が共催で、以下の要領で開催する。

テーマは「農業労災学の体系化・実証的解明の課題と農作業事故予防のノウハウ・労災補償対策の革新方向」とし、①農林水産省の松岡謙二生産資材対策室長、②三廻部眞己日本農業労災学会会長・東京農業大学総研研究会労災対策研究部会部会長、③門間敏幸東京農業大学教授、④臼井稔全国農協中央会営農企画課長、⑤宮永均秦野市農業協同組合参事がそれぞれ基調報告を行う。

以上の基調報告に対して①松岡公明農林漁業団体職員共済組合理事長が農業労災学の体系化・実証的解明の基本課題と行政・JAグループの農業労災予防・労災補償対策の革新方向について、②宮田正信東京農業大学総研研究会就農者推進教育研究部会部会長が高齢化と多様な就農者の実態に焦点をあてた農業労災予防・労災補償対策の革新方向について、③瀬川徳子社会保険労務士法人たんぼぼ会代表から社会保険労務士の実務面の業務を通じて明らかになっている農業労災予防・労災補償対策の革新方向について、それぞれコメントを行う。

その後、コメントへの報告者の回答ならびに出席者から提出された質問事項への回答を踏まえ全体討論を行い、主題とする農業労災学の体系化・実証的解明の課題と農作業事故予防のノウハウ・労災補償対策の革新方向の明確化をねらいとしている。

9 プログラム

- | | |
|--|-------------|
| 1) 受付開始 | 10:00～ |
| 2) 開会の挨拶：日本農業労災学会副会長・全国農業経営支援社会保険労務士ネットワーク会長・入来院重宏 | 10:30～10:40 |
| 3) 座長解題：日本農業労災学会副会長・東京農業大学総研研究会農業協同組合研究部会部会長・白石正彦 | 10:40～10:50 |

4) 基調報告 :

第1報告「農作業安全対策と平成24年農作業死亡事故調査結果について」
農林水産省生産局農産部技術普及課生産資材対策室長
松岡謙二 10:50~11:20

第2報告「日本農業労災学会がめざす事故予防のノウハウと労災補償対策」
日本農業労災学会会長・東京農業大学客員教授・総研研究会
労災対策研究部会部会長・三廻部眞己 11:20~12:00

<休憩・昼食> 12:00~13:30

第3報告「農業労災学における農業経営研究の課題—農業経営における農作業事故予防対策との関連で—」
日本農業労災学会理事・東京農業大学国際食料情報学部教授・総研研究会就
農者推進教育研究部会員・門間敏幸 13:30~14:00

第4報告「系統農協の農作業事故予防・労災補償活動の現状と課題」
全国農協中央会営農・農地総合対策部営農企画課長
臼井 稔 14:00~14:30

第5報告「秦野市農業協同組合の農業労災予防・労災補償対策の問題点と革新方向」
日本農業労災学会理事・神奈川県秦野市農業協同組合参事
宮永 均 14:30~14:50

<休憩> 14:50~15:00

5) コメント (30分) とコメントへの回答 (25分) 15:00~15:55

コメンテーター :

(1) 日本農業労災学会常任理事・農林漁業団体職員共済組合理事長・松岡公明

(2) 日本農業労災学会理事・東京農業大学農学部講師・総研研究会就農者推進教育
研究部会長・宮田正信

(3) 日本農業労災学会理事・社会保険労務士法人たんぼぼ会会長・瀬川徳子

6) 全体討論 15:55~16:50

7) 座長総括 16:50~16:55

8) 閉会の挨拶 日本農業労災学会副会長・浅野社会保険労務士事務所長・浅野公司
16:55~17:00

10 交流会 (日本農業労災学会と東京農業大学総研研究会3研究部会) :

17:20~19:20

会場 : 百周年記念講堂隣接の17・18号館1階「レストラン・すずしろ」

11 会場：東京農業大学世田谷キャンパスまでの交通経路



小田急線

- ◆ 経堂駅下車 徒歩 約 15 分
- ◆ 千歳船橋駅下車 徒歩 約 15 分
バス 約 5 分 <千歳船橋駅～農大前>
東急バス 渋谷駅行… (渋 23) 等々力操車所行… (等 11) 用賀駅行… (用 01)

JR 山の手線

- ◆ 渋谷駅下車(渋谷駅西口) バス 約 30 分 <渋谷駅～農大前>
小田急バス 成城学園前駅西口行…………… (渋 24) 調布駅南口行…………… (渋 26)
東急バス 成城学園前駅西口行…………… (渋 24) 祖師ヶ谷大蔵駅行…………… (渋 23)

東急田園都市線

- ◆ 用賀駅下車 徒歩 約 20 分・バス 約 10 分 <用賀～農大前>
東急バス 世田谷区民会館行…………… (園 02) 祖師ヶ谷大蔵駅行…………… (用 01)

東急東横線

- ◆ 田園調布駅下車 バス 約 30 分 <田園調布駅～農大前>
東急バス 世田谷区民会館行…………… (園 02)

12 東京農業大学世田谷キャンパス 大会会場案内図

